

共同運営部門：＜周産期センター＞産科医療センター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
診療局長兼産婦人科部長 兼薬剤管理センター長 兼周産期センター産科医療センター長 兼医療安全管理室長 兼国際診療支援センター長	荻田 和秀
副部長	古谷 毅一郎
医 長	鹿戸 佳代子
医 長	張 良実
医 長	山下 紗弥
医 長	來間 愛里
非常勤医員	小島 祥文 (9月退職)
非常勤医員	喜多 美里 (12月退職)
非常勤医員	真野 雄貴 (9月退職)
非常勤医員	中谷 早希 (9月退職)
非常勤医員	鈴木 理英 (9月退職)
非常勤医員	野村 友香 (10月入職)
非常勤医員	川崎 悠歩 (10月入職)
非常勤医員	中村 舞 (10月入職)

＜特色と概要＞



2008年度より、市立貝塚病院産婦人科との集約化の結果、泉州広域母子医療センターとして再編され、当科は周産期センター産科医療センターとしての機能を担って16年目になる。婦人科手術と悪性腫瘍の化学療法は市立貝塚病院にて産婦人科医が行い、当院では夜間休日の産婦人科一次・二次救急、分娩、母体搬送、産科手術を担当している。また、産科病棟(6階山側病棟)は2009年より完全母児同室を開始し、2025年からは完全麻酔科管理による和痛分娩を行っている。

これにより以前にも増して小児科、内科、外科、救命救急センター等との緊密な連携のみならず泉州地域の産婦人科医院との病診連携も強め、ハイリスク妊娠の集学的管理や早産児の受け入れなども行っている。対外的には地域周産期センター及びOGCS(産婦人科相互援助システム)準基幹病院となり、母体の緊急搬送受け入れ数も毎年160件前後、産婦人科一次救急の受け入れは府下3位で最重症妊婦受け入れ応需は府下1位の実績がある。

外来診療体制は従前と変わらず、産科・婦人科ともに初診・再診を受けることにしている。助産師外来は妊娠中や産後2週間健診を含め育児技術指導やメンタルヘルスチェックなどの助産師の特性を生かした外来づくりを行っている。また正常妊娠・正常分娩の方にも分娩・育児をしていただくため、助産師外来の拡充、4D超音波を導入している。更に、分娩後アイスクリームのサービス、夜食用の軽食、産後食と

してお祝い膳を用意している。2020年度より新たにコーヒーマーカーを導入し、産婦が好きな時に飲めるコーヒースービスを追加した。また、貝塚市・泉佐野市・熊取町・田尻町・泉南市・阪南市・岬町の皆さんの分娩費用は市内扱いとしている。(詳しくはホームページ参照)

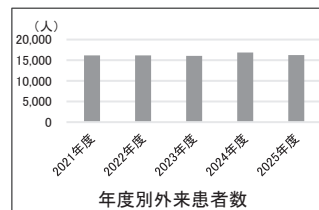
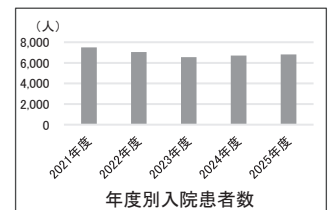
今後は全国的にも注目されているこのシステムを発展させ、広域に亘る中核病院としての役割を果たせるように間断なき努力をしていく所存である。



＜実績＞

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2021年度	16,165	66.8	7,502	20.6
2022年度	16,151	66.5	7,053	19.3
2023年度	16,066	66.1	6,559	17.9
2024年度	16,843	69.3	6,709	18.4
2025年度	16,242	67.1	6,812	18.7



入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)

(期間2025/4/1-2026/3/31退院)

主病名(ICD10コード名)	ICD10	件数
自然頭位分娩	O800	202
既往手術による子宮瘢痕による母体ケア	O342	74
胎児心拍数異常を合併する分娩	O680	45
その他の明示された介助単胎分娩	O838	43
切迫早産	O600	36
その他の微弱陣痛	O622	33
骨盤位のための母体ケア	O321	29
医学的人工流産、完全流産又は詳細不明の流産、合併症を伴わないもの	O049	25
子かん＜癰＞前症、詳細不明	O149	20
子宮外妊娠、詳細不明	O009	20
第3期出血	O720	18
稽留流産	O021	18
前期破水、詳細不明	O429	16
双胎妊娠	O300	14
前期破水、分娩開始が24時間未満のもの	O420	13
出血を伴う前置胎盤	O441	13
重症子かん＜癰＞前症	O141	11
遷延妊娠	O48	10
前期破水、分娩開始が24時間以後のもの	O421	9
羊膜腔及び羊膜の感染症	O411	9
妊娠中に発生した糖尿病	O244	9
卵巣の良性新生物＜腫瘍＞	D27	9
卵巣、卵管及び広間膜のその他の非炎症性障害	N838	9
軽度妊娠悪阻	O210	9
胎児発育不良のための母体ケア	O365	8

主病名 (ICD10 コード名)	ICD10	件数
女性骨盤炎症性疾患, 詳細不明	N739	8
偽陣痛, 詳細不明	O479	8
(子宮) 頸管無力症	N883	7
分娩停止, 詳細不明	O669	7
切迫流産	O200	7
子宮内胎児死亡のための母体ケア	O364	6
代謝障害を伴う妊娠悪阻	O211	6
妊娠高血圧(症)	O13	6
卵巣の過剰刺激	N981	6
自然流産, 完全流産又は詳細不明の流産, 合併症を伴わないもの	O039	5
分娩後の定型的<ルーチン>経過観察<フォローアップ>	Z392	4
遷延分娩, 詳細不明	O639	4
急性尿管間質性腎炎	N10	4
産じょく<褥>性敗血症	O85	4
妊娠, 分娩及び産じょく<褥>に合併する血液及び造血器のその他の疾患並びに免疫機構の障害	O991	4
その他の分娩直後出血	O721	4
第2期遷延(分娩)	O631	3
染色体異常の分娩前スクリーニング	Z360	3
軽症から中等症の子かん<癇>前症	O140	3
腹部, 下背部及び骨盤部の表在損傷, 部位不明	S309	3
第1期遷延(分娩)	O630	3
子宮平滑筋腫, 部位不明	D259	2
子宮頸部の悪性新生物<腫瘍>, 子宮頸(部), 部位不明	C539	2
膣及び外陰の開放創	S314	2
単胎自然分娩, 詳細不明	O809	2



手術件数と分娩数(2025年1月～12月)

(件)

総手術件数	婦人科手術	子宮内容 除去術	腹腔鏡下 手術	分娩数	帝王切開
212	4	27	6	658	180

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

今年度も産婦人科一次救急(府下3位)の受け入れ、二次救急(府下6位)、三次救急(府下1位)の母体搬送受け入れ、また新型コロナウイルス感染妊婦はパンデミック以来182例を受け入れ周産期中核病院としての成果を挙げた。分娩数は625件あり、外国人妊婦の分娩もその1割に達している。ハイリスク妊婦は67%あり、地域の周産期高次医療施設として機能している。

「りんくう発」としては泉州救命救急センターと協働で立ち上げた周産期蘇生二次コース「PC³」(ピーシーキューブ)の受講生が1,000名を超え、全国規模となっている。今後も継続して安全への取り組みに邁進する。

ローリスク分娩数の確保は周産期センター維持のためには極めて重要であるだけに、分娩数の増加についての更なる方策を講じたい。それには何より分娩の集約化・重点化とともに妊婦健診を近隣で受けられるスキーム作りの重要性について発信を続けていく予定である。

また、先述のPC³や新生児蘇生コース(NCPR)、学会認定の妊産婦蘇生コース(JMELS:京都プロトコル)などのセミナー教育を通じて地域の周産期医療レベルの向上に寄与していきたい。